



高専今年の年末・年始

都立産業技術高専名誉教授

吉田喜一

年末のあわただしい中、総選挙が終わりました。選挙結果は議論のあるところですが、私から見ると日本社会のプラスの方向へのきざしを感じています。

今年も恒例の中学生ロボコンが始まります。もう十四回目です。荒川区・北区の中学生を中心に五十名以上が高専に来てロボットの設計・製作に励みます。今年の競技ルールは三センチ立方の積み木のブロックを積み上げるといふものです。いろいろな戦略が考えられます。面白いロボコンになりそうです。

十二月二十一日(日)から始まり、年末三回、年始三回高専に来てもらい、高専学生の指導を受けて、一月十八日(日)午後の大会まで頑張ります。高専での試合のあと三月一日(日)午後北区大会が王子駅前の北とぴあで、そして三月十五日(日)

午前に荒川区産業展(南千住の総合スポーツセンター)で試合が行われます。最後は四月十九日(日)午前お台場の未来科学館でのエキシビジョンビジョンマッチで終わります。これらはミニコミ・マスコミの注目を毎年いただきニュースになっていきます。東京・下町のものづくりの伝統をこの中学生ロボコンで引き継いでほしいものだと思います。

株ころがしや為替差益で日本の経済を、本当に成長させることはできません。荒川区(そして南千住!)こそ、人の役立つものを作って、そして売って栄える街だと思えます。工業そして商業の、そして生活のバランスのとれたしっとりとした街、荒川区・・を皆さんとともに作りたいたいですね! (

高専ロボコンの全国大会の様子が、十二月二十九日(月)夜十時四十分から十二時まで、いわゆる年末のゴールデンタイムにNHK総合で全国放映されます。たいへんエキサイティングな放送になると思います。ぜひご覧ください。



久しぶりの「宅急便」配達助手 体験記

消費生活アドバイザー 佐藤 祐一郎

築マンションやアパートなど、普段立ち入ることのない区域では、高層階からの眺めに感心したり、最新のセキュリティ態勢に興味を持った時、時にはエレベーターや出入りの勝手が分からず戸惑ってしまうこともありました。

「南千住にはこういう建物があったて、こういう方々もお住まいなのか!」という新しい発見があるかと思えば、「の配達助手を体験したお話です。私にとつては、学生時代以来の配達アルバイトです。当店が「宅急便」取次店である縁で、今回、「暮れの忙しい時だけご近所の配達を手伝って頂けるとありがたいのですが、いかがですか?」という話が舞い込んできたものです。お店の閉店時間後ならば、という条件で引き受けました。

夜7時から9時までの間、ドライバーさんから指定された荷物を台車に載せて、住宅地図と建物の表示で確認しながら一軒一軒お届けするものです。日常、何気なく過ごしている街も、配達助手の立場で見ると新鮮な気がするものです。夜、いつもは通ることのない細い路地に入ると、知らない世界に迷い込んだ不思議な気分になります。オートロックの新

「お届けする荷物も、昔ながらのお歳暮品や、ふるさとからの心のこもった農産物があるかと思えば、代金引換の「お取り寄せ品」や、近年急成長している外資系ネット通販の商品がいくつもあつたりして、無店舗販売が急速に普及しているという流通の変化を垣間見ることができました。何よりも、日々当たり前のように荷物を送ったり、指定の日時に受け取ったりしていますが、配達員の方々の多くの工夫と努力で成り立っていることを改めて実感し、生活インフラとしての「宅急便」に対してありがたみを感じた次第です。